

創出と展開の喜び ～年輪を重ねて～

Uji 健歩会 相談役 黒澤弘和

100号、100枚の便りが重なっている。創刊号はどのような記事を掲載していたのだろう。「1号は何処にあったかな」と、散らかしていることが多いので、あれこれ考え込んでしまった。「どこだったかなー」が続いたが、ナンバリングは思っていたより早く見つけることが出来た。「第5回総会が終わり、会員49名となり、年間行事、創立5周年記念事業などの実施で情報の伝達・交換等の重要性が増してきたので『会報』を発行することにした」とあります。

1泊研修旅行、記念誌の発行等の記事も見られ、時を刻む一つ一つがこのような積み重ねの努力で100号まで来たんだ、と懐かしく思い出されました。ページを括れば、そこに活動の歴史と広がりが見られ、記憶が甦ります。200号、300号に向けて健歩会員が会友として手を取り合って胸を張り、喜びあえる会報にしていきたいものです。

情報を伝え、共有するためにチラシが用いられますが、定期的刊行となるとまた違った感覚や力量が求められます。私は元々文集を作った経験もなく疎かったので、本会の活動が活発化してくると、継続発行は手に負えなくなってきました。正式な分掌にはないけれども、会報発行や会議録の作成などの担当が必要となりました。その担当にと初めて声をかけた時、快く役務を引き受けてくれたのが幸田さん、矢野さんでした。初期は影武者的立場でしたが、次第に事務局として重責を担うようになり、会報が健歩会の活動に欠かせないものにまで成長し、現在では『ホームページを開設』して時宜に叶う注目すべき展開を繰り広げていることはご承知の通りで、その仕事ぶりは誰の眼にも明らかで、ただ感謝です。Uji 健歩会活動の機関車ともいえるでしょう。

班幹事は、今は2年任期ですが、選出するのに結構時間がかかります。できるなら避けて通りたいと思う方が多いと感じます。輪番で1年交代、という考えもありますが、幹事の成り手が無く交代が早いとなると、組織が何をやろうとしているのか分からず、また活気も出てきません。組織は継続性が大切で、長いスパンで物事を考えて運営し、和やかなコミュニケーションも考えて構築されねばなりません。確かに幹事さん・事務局の方は忙しい思いをしますが、一緒に汗を流した分、成長しますし、社会への貢献もしています。私は、Uji 健歩会はウォーキングを通してこの13年間「宇治市民の健康維持への意識向上と健康寿命の延伸等に貢献してきている」と自負しています。

今後なお一層会報が充実していくためには、会員からの興味、関心が高められねばなりません。現在の紙面を見ますと、必須事項の伝達で紙面がイッパイになっています。それは重要なことなのですが、在野からの日頃思っていること、悲喜こもごものお話が掲載されるようになったら、意識も高まり、そうでなくても短期になり視野が狭くなってきている我々高齢者の眼を広げることになります。新しい工夫が加わり紙面が多様化すれば、我々の日常生活も楽しく豊かになって行きます。生む苦しみはありますが喜びが増します。

バトンルーよろしく指名方式で情報を増やし、ウォーキングの喜びを分かち合ひましょう。
《健康寿命 & 健幸華齢》

書くことは認知症の予防にもなると言われます。会報の紙面が多方面にわたる情報で変化に富むなら、年老いて頑固者になっても、脳が刺激を受け、柔らかで円満な人柄に変われます。

食わず嫌いにならず、人生の快気を広げる『Uji 健歩会報』を皆で育てましょう。